



## 春先に向け、吸血昆虫対策(特にサシバエ対策)を強化しましょう!

昨年11月に国内で初めてランピースキン病の発生が確認され、これまでに2県22農場において発生が確認されています。本病を媒介する吸血昆虫が活発となる春先に向け、対策を強化しましょう。特に、個体数や吸血頻度が多いサシバエ対策が重要です。

### ①卵・幼虫・さなぎの対策

#### 【卵や幼虫の特徴】

牛舎壁の隅・溝、ウォーターカップ・ゴムマットの下に存在

#### 【対策】

隙間、溝の清掃。成牛が踏まない場所(特に牛舎隅)や子牛の牛床全体への昆虫成長制御材(IGR剤)の散布

#### 【さなぎの特徴】

堆肥などの中で越冬

#### 【対策】

堆肥の適切な頻度での切り返しと水分管理によって発酵熱を高め、殺虫を行う

### ②成虫の対策

#### 【成虫の特徴】

春先の比較的涼しい時期に活動が活発化

#### 【対策】

作用機序の異なる殺虫剤をローテーションで使用する  
網目が6mmの薬剤含浸防虫ネットやハエ取り紙の設置  
牛舎周辺の草刈り

※対策の詳細は、別紙リーフレットを参照してください※